

第45回社会福祉のフロンティア

相模原市津久井やまゆり園 殺傷事件を振り返る

日時: 2017年7月15日(土) 15:00~17:30

会場: 立教大学池袋キャンパス 7号館1階7102教室

2016年7月26日に神奈川県相模原市にある「津久井やまゆり園」で、しょうがいのある数多くの人々が殺傷されてほぼ一年になる。この事件が、なぜ発生し、何を意味しており、私たちは今後何をすればよいのか、あらためて振り返ることにする。今回の講師である岡原正幸氏は感情社会学を専門として、しょうがい者の差別問題に長年取り組んできた。また、熊谷晋一郎氏は小児科医であるとともに脳性まひの当事者であり、当事者の立場からしょうがいの問題に向き合う「当事者研究」を推進している。やまゆり園での事件について発言してきた二人の研究者を招聘し、司会である河野哲也(文学部教授、社会福祉研究所所員)と参加者とともに、単純に「ヘイトクライム」として片付けるわけにはいかないこの事件についてあらためて分析し、しょうがい者をめぐる現代社会の問題について深く考察する。

講師

慶應義塾大学文学部教授 岡原 正幸

慶應義塾大学社会学研究科博士課程修了、慶應義塾大学文学部助手、助教授を経て現職。主な研究領域は、アートベース・リサーチ、感情社会学、障害学、パフォーマンス研究。

単著に『感情資本主義に生まれて—感情と身体の新たな地平を模索する』(2013年)、共著に『対決を乗り越える心の実践: 障害者差別にどのように向き合うか?』(2017年)、『感情を生きる—パフォーマティブ社会学へ』(2014年)『生の技法 家と施設を出て暮らす障害者の社会学』(1990年初版、2012年文庫版)等

東京大学先端科学技術研究センター准教授 熊谷 晋一郎

東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士取得、埼玉医科大学病院小児心臓病棟助手、東京大学先端科学技術研究センター特任講師を経て現職。当事者研究を専門とする。

単著として『リハビリの夜』(2009)があり、共著として『atプラス31—他者の理解』(2017年)、『障害者運動のバトンをつなぐ—いま、あらためて地域で生きていくために』(2016年)等

司会

河野 哲也 立教大学文学部教授・社会福祉研究所所員

慶應義塾大学文学研究科哲学専攻博士取得、防衛大学校と玉川大学を経て現職。教育哲学を中心的テーマとして研究を行っている。

対象者

学生、教職員

一般(予約不要)